

花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **05**
平成31年3月13日号

日時：平成31年3月13日(水)
9:00～11:30
場所：馬見丘陵公園
花サポーター花壇
参加者：22人

9:00～9:15 全体説明
9:15～10:00 雑草、既存苗の撤去
10:00～10:30 苗の配置
10:30～11:15 植え付け、灌水
11:15～11:30 ハングングバスケット設置



▲3/13時点の花サポーター花壇



春花壇の施工を行いました

2/27のワークショップで行った花壇デザインを元に、パステルカラーでグラデーションを表現したボーダー花壇の施工を行いました。冬に植えたパンジー達も元気を取り戻しめ、チューリップの芽も伸びだし、すっかり春らしい花壇となりました。

また、前回のワークショップで作成したハンギングバスケットを設置しました。植え付けから2週間経ち根が定着したことで、特にセラスチュームは著しく成長しています。



根鉢の崩し方

根鉢の崩し方について実際のポット苗を使って実演しました。前回のニュースレターの「鉢の中の根の張り方」と合わせてご覧ください。



①根鉢を崩す必要のある苗はポットから根が出ていることが多いです。写真はオステオスペルマムの苗です。



②ポットの中に根がびっしりと回っている場合は根鉢を崩しますが、そうでない場合は崩す必要はありません。



③根の先端が集まっている底の中心に指を入れ、中の根をかき出すイメージでほぐします。



④中に入っていた根をほぐし出した状態です。手でほぐせない場合はハサミや移植ごてを使いましょう。



⑤ほぐし出した根は先端を手で軽くちぎります。茎に近い所をちぎってしまわないように気をつけましょう。



⑥ほぐした根を手でまとめ、植え付けます。

質問コーナー

Q. 肥料を施す時期、植え替えの時期、剪定の時期等を教えて欲しいです。

花サポーター花壇は公園のイベントに合わせて植え替えを行っていますが、枯れた箇所を随時植え替えて更新するのが理想的です。しかし、大規模な花壇を常に更新し続けるのは大変なので、ここでは年間の植え替えローテーションと管理について紹介します。

① 植え替えローテーション

植え替え回数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
年2回		冬～春花壇				初夏～秋花壇					冬～春花壇	
年3回 - その1		冬～春花壇			初夏花壇		夏～秋花壇				冬～春花壇	
年3回 - その2		冬～春花壇			初夏～夏花壇			秋花壇			冬～春花壇	
年4回 - その1		冬～春花壇			初夏花壇		夏花壇		秋花壇		冬～春花壇	
年4回 - その2	冬花壇			春～初夏花壇			夏花壇		秋花壇		冬～春花壇	

② 施肥のタイミング

肥料を施す方法は、植え付け時に施す「元肥」と、栽培途中に生育状況に応じて与える「追肥」に分けられます。元肥は、植物を植え付けるときに与える肥料なので、上記の植え替えのタイミングで用土に混ぜて施してください。

追肥は決まった日に決まった量を施すのではなく、植物の生育状況や天候等によって量や種類を変えるのが理想です。長く花を楽しむためには肥料切れを起こさないようにします。また、夏場は水やりの回数が増え、肥料が流出しやすくなるので、普段液体肥料を施している場合はそれに加えて化成肥料を置き肥してやるなどして補います。

生育状況と肥料の種類

植物の生育状況によって必要とする養分は変わるので、肥料の三大要素である「窒素（葉肥）-リン酸（花肥）-カリ（根肥）」の割合を変えてやります。



追肥のタイミング

肥料切れのサインとして植物に現れる症状には、以下のようなものがあります。日々観察して、肥料切れを防ぎましょう。

肥料切れのサイン

- ・全体的に葉色が薄くなる
- ・下葉が黄色くなる
- ・新しい葉や花が小さくなる
- ・花付きが悪くなる

③ 切り戻し・摘心

切り戻しは株の途中で全体的に剪定するのに対し、摘心は茎先を切ることを言います。どちらも茎を切る作業で、花を長く楽しむために行います。

夏越しのための切り戻し

7月頃に草丈の1/3～1/2程度の位置で切り戻し、草姿を整え、風通しを良くします。
 (インパチェンス、ペチュニア、ハーブ類 等)

夏を越した後の切り戻し

7月頃に切り戻しを行わずに株が傷んできた場合、8月中～下旬頃に1/3～1/2程度の位置で切り戻します。

木質化した株の切り戻し

宿根草は茎の下部が木質化しやすいです。木質化していない緑色の部分で切り戻すと、わき芽が発生しやすくなります。時期は植物の種類によります。(マーガレット、サルビア・レウカンサ 等)

摘心

摘心は、生育中の芽の先端を摘み、その下の節にあるわき芽の伸長を促して枝数を増やす、全体のボリュームを出すための作業です。植物や気温によって時期や回数は左右されますが、目安として、植え付け後～2・3週間は新芽を摘心すると更に新芽が出て全体のボリューム感が増します。

摘心を行うと20～30日は花が咲かないため、摘心の回数に関係なく、開花の1・2か月後には最後の摘心を終えるようにします。

摘心に向いているのは、ペチュニア、サフィニア、インパチェンス、ピンカ、アメリカンブルー、ジニア、アサガオ、ヒマワリ、宿根バーベナなど、花期の長い植物です。



夏花壇におすすめの花（質問コーナー）

花サポーター花壇や県民共同花壇におすすめの、暑さに強く花期の長い夏の花を紹介します。



アンゲロニア
 (1年草扱いの宿根草)



サルビア・スプレンドENS
 (1年草扱いの宿根草)



サルビア・ファリナセア
 (1年草扱いの宿根草)



マリーゴールド
 (1年草)



アゲラタム
 (1年草扱いの宿根草)



ヘメロカリス
 (宿根草)



メランポジウム
 (1年草)



チェリーセージ
 (宿根草)



ペンタス
 (1年草扱いの宿根草)



ポーチュラカ
 (1年草扱いの宿根草)